# 令和８年度　学校評価自己評価表

| | | | |
|---|---|---|---|
| a　ミッション | 資質・能力の育成に向け主体的に学び続ける教職員集団による学校づくりの推進 | a　ビジョン<br>（学校教育目標）　夢や目標をもち、主体的に学び続ける児童の育成　（子ども達に育てたい資質・能力）　アイデンティティ・自発性・コミュニケーション能力<br>（めざす子供像）　〇資質・能力を身に付け、主体的に学び続ける子供　〇自他の良さや可能性を知り、他者と協働できる子供　〇基本的生活習慣を身に付け、健康や体力等を増進する子供<br>（めざす教職員像）〇確かな授業力をもち、資質・能力を育成する教職員　〇実態把握をし、児童の力を最大限に引き出せる教職員　〇主体的に学校経営に参画する教職員 | 世羅町立甲山小学校 |

| 評価計画 | | | | | | 自己評価 | | | | | 学校関係者評価 | | | | 改善計画 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | b 中期経営目標 | c 短期経営目標 | d 目標達成のための方策 | e 評価指標 | f 目標値 | 7月 g 達成値 | 1月 g 達成値 | h 度達成 | i 評価 | j 結果と課題の説明 | k 二次評価 イ | ロ | ハ | l コメント | m 改善案 |
| 確かな学力 | 主体的に学び、学力を身に付けている児童の育成 | 〇資質・能力の育成を目指して、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る。 | ・知識技能を活用し、主体的に思考する授業づくりを進めるために、「教師がリードする場面」と「子供に委ねる場面」がある授業づくりをすすめる。 | ・算数科の単元末テスト（知識・理解）及び（思考・判断・表現）で80点以上の児童の割合<br>・教師アンケート授業研究における児童の姿についての肯定的評価<br>・児童アンケート資質・能力についての肯定的評価の割合 | 80%<br>肯定的評価90%<br>肯定的評価90% | 知・理83%<br>思・判表74%<br>１２月に実施<br>肯定的評価<br>% | | | | ・算数科の単元末テストの結果であるが、知識・理解が８３%、思考・判断・表現が74%であった。思考・判断・表現については、目標値の80%を下回っている。知識・理解については目標値の８０%を超えてはいるが、共通する課題があった。知識・理解、思考・判断・表現ともに、学年により大きな差がある。これは学級実態により習熟度にの違いがあるためだと考える。この差を少なくしていくことが今後の課題である。全校で学力向上に取り組み、学校全体の学力向上につなげていきたい。<br>・児童アンケートでは，それぞれの質問における肯定的評価の割合は，<br>他の人と一緒に学ぶとき，自分の得意を生かしたり，苦手を補ってもらったりしながら学習を進めることができる。（アイデンティティ）【76%】<br>学んでいて解決できるか分からない問いや課題に出合ったとき，挑戦したり失敗したりすることを楽しめる。（自発性）【74%】<br>授業では，他の人の考えや意見を自分の学びに生かしている。（コミュニケーション力）【77%】<br>自発性に係る項目の肯定的評価が低かった。他者とのかかわりに関して自信を持てない面が見られるので，協働的な学びの場を意図的に設定することが必要である。 | | | | | |
| 豊かな心 | 自他の良さや可能性を認識し、他者と協働できる児童の育成 | 〇道徳教育を核にした心豊かな児童の育成 | ・「自己理解・他者理解」を進めるために、総合単元道徳に取り組む。 | ・児童アンケート「道徳科で学んだことを自分の生活に活かしていると感じている。」の肯定的評価の割合 | 90% | 92%<br>6月実施 | | | | ・道徳に関するアンケートにおいて、肯定的評価のうち「当てはまる」と答えた児童は55.1%、「どちらかといえば当てはまる」と答えた児童は37%であった。教職員アンケートでは「児童生徒が道徳科の授業で勉強したことを自分の生活にいかしているか」の項目で、「当てはまる」と答えた職員は42%、「どちらかといえば当てはまる」と答えた職員は58%であった。児童・教職員ともに肯定的評価が高く、総合単元道徳の取り組みを継続していく。 | | | | | |
| | | 〇課題意識をもち、創造的・協働的に問題を解決する児童会活動の推進 | ・主体的に生活上の課題（あいさつ・返事・ＭＵＧＯＮ３を含む）を解決するために、ポイント制やゲーム形式など具体的な仕掛けをして取組を行う。 | ・児童アンケート「あいさつ・MUGON３がとてもよくできた」の割合 | 80% | 89%<br>7月実施 | | | | ・MUGON３に関するアンケートにおいて、児童の肯定的評価は89%であった。教職員アンケートでは肯定的評価が76%であり、児童の自己評価との差が大きいことが分かった。2学期から、主に無言集合・無言移動において、静かな状況の基準を児童と教職員の間で共有する。そうすることで、児童がより客観的に自己評価を行い、自力で改善に向けて取り組めるようにする。 | | | | | |
| 健やかな体 | 主体的に健康や体力を増進する児童の育成 | 〇課題意識をもち、体力つくりをする児童の育成 | ・新体力テストの柔軟性に重点を置いた取組を進め、レベルアップを図る。 | ・体力テストの柔軟性（長座体前屈）の記録で、全国平均を上回る学年（男女別）の割合 | 70% | | | | | | | | | | |
| | | 〇課題意識をもち、基本的生活習慣の確立に取り組む児童の育成 | ・早寝・早起き・朝ごはん等について毎月生活チャレンジ習慣を設定して取り組む。 | ・生活チャレンジの「早起き」のパーフェクトの割合 | 85% | | | | | | | | | | |
| 信頼される学校 | 創立150周年の歴史と伝統を誇る児童が育つ学校づくりの推進 | 〇コミュニティ・スクールの推進 | ・教育活動にかかわるサポートスタッフを増やし、地域と共に150年の歴史と伝統を誇る児童の育成を行う。 | ・サポートスタッフとしての参加者が延べ100名を超える。７月目標50名　１月目標100名 | 100% | 7月89名 | | 178 | | ・教育活動にかかるサポートスタッフとして協力してくださった方は、７月末で８９名であった。 | | | | | |
| | | 〇教職員の働きやすさと働きがいを両立し、子供たちによりよい教育を行う学校経営の推進 | ・笑顔ある風通しの良い職員室をつくり、信頼で結ばれた職員集団づくりを進める。 | ・職員アンケートにおける心理的安全性に係る質問項目の肯定的評価の割合 | 80% | % | | | | ・職員アンケートにおける心理的安全性に係る質問項目の肯定的評価は　　%であった。 | | | | | |
| | | | | ・1か月の時間外在校時間が30時間以内の職員の割合 | 100% | 47.8% | | 47.8 | | ・１カ月の時間外在校時間が３０時間以内の職員の割合は、４７．８%であった。４月は７名、５月は８名、６月は７名、７月は１０名が達成できた。 | | | | | |

【自己評価　評価】
Ａ：１００≦（目標達成）　　Ｂ：８０≦（ほぼ達成）＜１００
Ｃ：６０≦（もう少し）＜８０　　Ｄ：（できていない）＜６０

【外部評価】
イ：自己評価は適正である。
ロ：自己評価は　適正でない。
ハ：わからない。